



ふたば
双葉

愉しく 仲良く 元気よく
志を持ち国際社会に羽ばたくシカゴっ子

行く年 くる年

～ みなさま よい年をお迎えください ～

シカゴ双葉会日本語学校 全日校

(シカゴ日本人学校) 校長 長谷川 雄一

みなさま、今年が間もなく暮れようとしています。

2023年・令和5年、たいへんお世話になりました。学校へのご理解とご協力に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今年一年いかがでしたでしょうか。今年も世界各地で、あるいは日本国内で様々な出来事がありました。どちらかと言えば、大きく報道されるニュースは人々を不安にさせるものが多く感じられましたが、年末に飛び込んできた大谷翔平選手のドジャース移籍報道のような子どもたちに夢を与えるようなものもあるのが救いです。

大谷選手といえば以前、日本の岩手県の花巻温泉に行った時に、ホテルのマネージャーの方が大谷選手のことを高校時代からよくご存じで、そのころから体が大きくしつけがしっかりとされている印象のある生徒だったそうです。このホテルは、大規模な別々のホテルが3棟並んで建てられていました。ほぼ夏休み中は毎日、高校の野球部の練習が終わると、監督が部員全員を連れてバスで昼食のビュッフェに来たのだそうです。(監督の自腹だそうです)これを聞いただけでも、すごい高校だなあという印象です。昼食会場は同じ会場で食べ放題。しかし、その後の入浴は厳格に分けられたそうです。一般部員は団体旅行者専用のホテルのお風呂へ、準レギュラーは一般旅行者専用のホテル、監督とレギュラー選手は露天風呂のある高級ホテルに入れたそうです。生徒たちはみな、少しでも上位に上がろうとレギュラーを目指していたそうです。

日本の公教育では、すべて平等が何よりもよしとされがちですが、一度世の中に出ると現実とは全く異なります。厳しいスポーツの実力社会だからこそかもしれませんが、その学校から大谷選手や菊池選手と世界的な選手を生み出したのですからたいしたもの。この高校のある

周辺は山に囲まれ田畑が広がるのどかな風景で、本当に何もなく、宮沢賢治の世界が未だに残るような風景でした。あのような場所からこのような世界的な選手が生み出されたことこそ、信じられないような田舎町でした。ちなみに大谷選手はプロに入り、毎年両親や家族を連れて泊りに来てくれますとその親孝行ぶりもこっそりと教えてくれました。

さて、各ご家庭におかれましても、一人ひとりのお子様の成長が感じられた一年だと思われ
ます。日々の授業による教科等の指導、クラスがひとつにまとまり、それを通して一人ひとり
の心が磨かれた学校行事、日常的なネイティブスピーカーたちとの触れ合い、お渡しする通知
票はもちろんです、それ以上の心身の成長が見られました。ぜひご家庭でわずかな一歩でも
ほめて認め、来年につなげていただければと考えています。

来年（2024年・令和6年）は辰年（たつどし）です。動物にあてはめると竜（龍）です
が、竜は十二支で唯一の想像上の動物です。古代中国で生まれた十二支では、辰すなわち龍は
中国で古くから偉大な生き物、神の化身など様々な霊力を持ち、皇帝の象徴とされていたそう
です。その力を大きな力と成長、成功ととらえることもあるそうです。来年も子どもたちの大
きな成長を願います。

令和6年、2024年はどんな年になるのでしょうか。みなさまのご多幸を心よりお祈り申し
上げます。よい年をお迎えください。ありがとうございました。

進路のご相談が増えています

最近、時期的に進路のご相談を受ける機会が増えています。

現地校に通われているお子さんが、日本の高校進学を希望されており、そのためにはどのタ
イミングで全日校に入れることがよいかとのご相談や、いつ帰国して受験に備えたらよいかと
言った点での深刻なお悩みが増えています。

結論から申し上げますと、日本の高校・大学に一般的な方法で受験し進学させるならば、でき
るだけ早く日本の教育に慣れさせたほうがよいですし、学習の積み上げも容易になります。

一番よいのは、いわゆる帰国生枠の特別選考で、論文と面接、そして成績証明のみのような
ケースです。しかし、多くは帰国生試験と言いながら、一般受験と同じ試験内容で、形式的な
帰国生枠に過ぎないものも少なくありません。当然、そうした学校は入学後も特別に英語能力
を維持し伸ばす授業もなく、一般受験生徒と同じ授業を受けるのみという学校も多いと思われ
ます。国際化と言われても、いまだに多くの日本の教育はそのような現状です。

特に公立学校では文部科学省の研究指定を受けたようなよほどの重点校でないかぎり、親子共に学校生活だけでは満足できないものと思われます。そのため、大学の付属校や、難関校受験対策に優れた私立高校に優秀な生徒が流れてしまう傾向がみられます。

世界の日本人学校では中学3年生になると、7月、あるいは9月に日本の高校に進学したいとの希望で、現地校から入る生徒が多く見られます。しかし、私の知る限りでは、あまり順調には行かないようです。理由は現地校の学校生活から日本人学校の生活に慣れるにはある程度の時間と精神的な苦痛が伴うことです。何よりも試験を受けても英語以外はほとんど点数が取れないので、大きなショックがあるようです。以前勤めた日本人学校では、幼少の頃からアメリカの現地校にいた生徒が日本の高校に入りたいとの理由から、中3の9月に日本人学校に入学してきましたが約2週間で退学しました。そして、アメリカに戻り現地校に行ったそうです。現地校ではトップクラスの成績でしたが、入学直後の日本の実力テストで、英語は満点でしたが、他教科はほぼ2割から3割の点数で、全国順位を見てかなり落ち込んだようです。

さらには、日本の一般的な高校受験には、当日の試験だけではなく、中学校3年間の内申点が必要とされる学校がほとんどです。特に公立高校や推薦枠のある学校では重視されます。関東首都圏のある県では、学習成績だけでなく、一例として生徒会会長には〇点加算、専門委員会委員長には〇点加算、部活動の部長に〇点加算、大会成績により〇点加算、英検〇級以上には〇点加算など、非常に細かい内容を点数化している高校もあります。そのため、定められた内申書類に記入するためにフォントを下げ、虫眼鏡がないと読めないような生徒も少なくありませんでした。そんなたかだか数点なら気にしなくてもよいではないかと言う保護者の方もいますが、難しい学校になると、やはり点数も上位に多くが集まり、最後は数点差の勝負となります。特に極端に難しい問題の出せない公立高校はそうした傾向が強くなります。

私立の有名な高校の中には、一切内申は関係なく、当日の点数のみで合否を決めるとの学校もあります。在外教育施設から志願する生徒も多い学校で、大学には在校中の成績で進学できる学部が制限されるようですが、原則的に大学にはエスカレーターで進学できます。なんだかとても難しそうな学校ですが、実は地元の公立中学校には学校推薦枠が割り当てられており、地元の中学校の優秀な生徒（だいたいトップの生徒です）はこれで進学していきました。ただし、こちらも在外教育施設で優秀な生徒であっても、中学校3年で転校して、トップの内申点はなかなか取れるものではなく、こうした制度を利用する場合も、中学1年生の最初から在籍したほうがはるかに有利になると経験上思われます。

ちなみに内申書ですが、3年間分とは言いますが、実際には2年と8か月間の成績になります。ですから、中学3年の9月に入ってきてても内申点はその2ヵ月後の11月までの成績で確定することになります。私立の早い高校では12月から選考が始まる県もあります。ある県では内申書を事前に保護者に知らせる制度が設けられており、その期日が12月末ですので、何段階かの手順を踏んで、確認をされた内申書が作成されるのが遅くても12月中旬、ギリギリで11月中旬までの授業やテスト等の成績を反映することになります。他国の在外教育施設では、9月以降の中学3年生の入学を事実上受けつけない学校もあるとのこと。本校はそのような対応はとりません。

私がいた地域の中学校は2学期制でしたので、実質9月、がんばって10月初旬までの前期のみの成績が大きく内申書（内申点）に影響しました。（後期の通知票の成績は3月です）つまり7月、9月では本人のベストな利益を考えると遅すぎるのです。

このようにお話をすると、頭を抱えたいくなるような判断の難しさがあります。わが子の大切な学校、それも高校はさらに上の最終学歴に影響します。親御さんにしてみれば大変ご心配だと思います。

そのためにも、早い時期から高校段階でどうするのかをご家族で話し合い、日本に帰り高校進学をさせるお考えならば、事前によく都道府県の教育委員会や公立・私立学校に問合せをして、入試制度や学校生活などの実際を聞いてみたりして、足を運び見ておくのも大切です。今、日本では優秀な生徒がほしいため、小学生とその保護者を対象とした高校説明会を行う学校もありますし、相談会・説明会・見学会・授業体験・先輩から聞く会等々いろいろな機会を設けています。中学1年生や2年生に開放している学校も珍しくありません。（関東首都圏では）

なお、そうした学校は訪問時に生徒と保護者の服装や身なり等のチェックもされています。なぜならば、入学後に生徒指導上の問題を起こして退学者がでてしまうと、高校側としてはその評判や補助金等に影響がでて経営に影響を与えます。学費等も高額になります。あとで払えません、少し待ってくださいでは、こちらも経営に影響があります。そうした点で、国内の中学校では特に夏休み前から保護者説明会や進路説明会などを開き、生徒に周知理解させるとともに、保護者にも協力を求めます。一例として、上履きや外履きに、靴のかかとを踏んでいるあとはないかどうか、待合室でのあき時間にスマホ等をいじる生徒はいないかどうか、ピアスの穴が開いていないかどうか、とりとめのないことのようにですが、特に私立学校はその評判がすぐに経営に影響を与えますから、観察する先生方の真剣さもちがいます。

受験はまず実地調査を含めて事前調査が何よりも大切です。まとめです。

1 相手を知る

- どんな学校なのか、学力はどの程度必要か、特色は、通学はどうしますか。

付属といえども、高校3年間の成績次第で進学できる大学の学部が決められてしまう学校もあります。あこがれの付属高校で大学受験は安心でも、結局、自分で学びたい学部学科には進めない場合もあります。そう言う保護者の中には、「だから、がんばってね」とお子さんに言うご家庭もありますが、難関校に入り、下位から上位に入ることは現実的にはかなり難しいそうです。入学時に下位で入った生徒はほぼ卒業するまで下位だそうです。中学校時代とはちがひ、選ばれた生徒が集まる高校は、逆転がたいへん難しいとのことでした。（付属校・進学校の複数の高校教員から聞きました）

2 児童生徒が自分を知る

- せっかく入学できても、自分の期待とちがっていた、難関校に入れても3年間最下位レベルでは推薦受験の枠にも入れず、何よりも自信を失います。
- 日本では中学3年生のこの時期になっても、「将来何するの?」「大学はどう考えているの?」と聞いても、「高校に入ってから考えます」「部活動をがんばります」などと呑気に言う生徒が未だに多くいます。進学校の教員に言わせると、ほとんどの中学3年生が1月・2月の入試が終わり、やれやれと気が抜けるそうです。そして、高校入学後そろそろ勉強に取り組まないといけないと思いはじめるのが、早い子で5月だそうです。その間の3～4ヶ月間の空白が実は大学受験で現役合格と浪人になる大きな差になるのだそうです。そのため、私立の進学校では合格と同時に（多くはその週末に）すぐにオリエンテーションを開催し、今の受験勉強レベルを維持させるために、多くの宿題を課し、そのまま3年間を過ごさせるのだそうです。その結果、いわゆる一流大学に現役で入る学力がつくとの説明でした。

3 実際にお子さんと学校を見にいられましたか?

- 情報端末や資料で情報は入手できますが、そうしたものは相手側の都合のよいようにしか

書いてありません。例えば、本校は帰国子女枠を合格者の10パーセント確保して優秀な帰国生を求めています、とあっても、現実的にはどうかは別問題です。帰国生がそんなに集まるかどうか、どのような帰国生かも不明瞭です。本校はネイティブスピーカーの英語部の先生方がフルタイム雇用で勤務されていますが、首都圏の数百人規模の公立学校でも、1名のALT（外国語補助教員）がいる程度だったり、多くのネイティブスピーカーが名前を連ねていても、時間講師であったりとその実際はなかなかわかりにくいものです。授業を見て、進路実績なども確認するとよいでしょう。

最後に、高校の図書室を覗いてみてください。その学校の姿勢がわかります。自習できるスペースや机イスがあるか、当日の各社の新聞が自由に生徒が閲覧できるように置かれているか、朝は何時から開放されていて、夜は何時まで使用可能かなど、学校側の姿勢と生徒の利用度がわかるはずです。蔵書も新刊が複数冊置かれている学校は、生徒の利用度も司書さんの意欲も確認できます。置かれている雑誌も漫画やイラスト系のものが多いか、ニュートンやナショナルジオグラフィック、ニューズウィークやタイムなどのレベルの高い雑誌が置かれているかどうかからもわかります。学費が高くてこうした環境があれば、満足感も感じられます。

ここアーリントンハイツの図書館をご利用されれば、文化的教育的に質の高い図書館の雰囲気はおわかりかと思います。

子どもも保護者も最初のこの段階は見通しが暗く、不安です。どうぞ遠慮なく、担任の先生にご相談ください。派遣教員は全国から集まっています。他の都道府県であってもアプローチの方法については経験豊富な教員がいます。

暗中模索する中で、子どもも保護者も学校も、三者がピッタリとあう瞬間が必ずあります。やはり、ご縁とはあるものです。私は国内校では高校選びはイメージ的に「お見合い」のようなものと説明してきました。片思いだけではだめで、お互いに相手を知ること、最終的に周囲が合意できれば新たなスタートです。

新たな年に、よきご縁との出会いがありますように。

校内の風景から

校内を回ると、各学年の掲示物のすばらしさに目が引き込まれます。

1年生はインタビューの学習をしました。人から何か目的を持ちながらお話を引き出して聞くことは、とても難しいです。さらにそれを自分でまとめて文章に書く力は相当な学力の伸びだといえます。これからの学習を考えても、この力を培うことは大きな成長です。一人ひとりがインタビューでまとめたレポートが掲示されています。1年生でもあんなに文章が書けるのですね。感心します。

同時に夏休みに育てた様々な茎ものを使い、クリスマスリースを作り掲示しています。初期段階では、これはとてもリースにはならないだろうと見ていましたが、担任の先生方の指導と1年生の学習能力はとても高いもので、見事なリースが飾られていました。それも一人ひとり、味わいのある個性的なリースです。よいクリスマスが訪れるでしょう。

6年生は、作文用紙が掲示されていました。題して「私が座右の銘にしたい言葉」です。名前は伏せるようにとの児童との約束です。

○「迅速果断」 Sさん

すばやく行動するのが苦手なSさんは、この言葉を心に置き、自分の行動の指針にしたいとのこと。あなたはテキパキと素早く見えるけど、他人から見る目と、自分を見る目はちがうんだね。

○「こわいのは何もはじめないことだ」 Hさん

いつも自分に自信がないHさん、何かを始めることはこわいことではない、こわいのは何もはじめないことだ、とのマイケルジョーダン選手の言葉が心に残るそうです。大人こそ学びたいね。

○「笑う門には福来る」 kさん

日本からシカゴに来る時に、友達が教えてくれた印象に残る言葉だそうです。日本を遠く離れ、旅立つあなたへの深いおもいやり、言葉も素晴らしいけど、いい友達だね。

○「継続する力と努力」 Uさん

努力を続けることが苦手だと言うUさん。今の事しか考えず、後悔ばかりしたそうです。そのため、自分の心に置きたい言葉にしたそうです。6年生になると、こうした努力とかの意味がわかるようになるのですね。

○「自信を持って」 Sさん

日頃、意見を言えない自分、言いたいことが言えない自分、自信がないからやめようではなく、自信をつけるためにやってみようだそうです。日本では古くから、言えないのではなく、言わない美徳も貴重なのですよ。両方を兼ね備えるとよいね。

○「報われるまで努力するんだ」 kさん

百人一首大会でがんばろうとしたのに、自分の努力が報われない、自分の努力が足りないことに気づかされた。あきらめてしまう自分に、メッシが語った言葉が、心に響いたようです。

○「成功まで続ける」 Oさん

すぐにあきらめてしまう自分がある。なぜ、あきらめてしまうのだろう、失敗は成功のもと、あきらめずに続けてみよう。世の中にはあきらめる人と、あきらめない人の二通りの人がいると言われているよ。

○「人生はどちらか」 Nさん

人生はどちらか、勇気を持ち挑むか、棒にふるか、ヘレンケラーの言葉が、あきらめそうになる自分に語りかけてきます。先人の生き方はとても参考になりますね。伝記を読みましょう。

○「雨垂れ石をうがっ」 Tさん

中国の古文から、あきらめず、改善点を見出して取り組む大切さを学びました。九州に高千穂峡という名勝地があります。たかが水、されど水がこんな岩に穴をあけてしまうのかと驚きますよ。続けることは大きな力になります。継続は力ですね。

○「きっと、大丈夫」 Oさん

Oさんも日本からシカゴに来る時に友達が言ってくれた言葉だそうです。小学生同士が別れに際して、互いに別れを惜しみあい、このような言葉をかけあうことに感動しました。

○「自信がないからやめようじゃなく、自信をつけるためにやろう」 Tさん

自分に自信が持てない、大きな声でセリフを言おう、ここに動作を入れようと双葉フェスティバルで考えてみたけど、本番も自信が持てずに結局できなかった。そんな中で、これくらいいいかと思う自分に気がついたとの内容でした。いえいえ、あなたが大きな声をだそう、がんばろうとしていた姿はみんなが見ていましたよ。あなたの気持ちは伝わっていました。

○「人生は楽しむためにある」 Aさん

不安や悩みで泣いていた私に、父が教えてくれた言葉だそうです。いい言葉だ。そして、すばらしい家族だね。よけいなコメントはいらないよね。

○「行動が全ての成功への基本的なカギである」 wさん

ピカソの言葉である、行動こそすべての始まりから学んだそうです。

へえ～、6年生になるとピカソがわかるんですね。すごいことですよ。心の眼が育っているんだね。

○「夢見ることができれば、それは実現できる」 kさん

日常生活の中で、旅行計画を立ててみたけれど失敗したり、いろいろなことがうまくいかずに、あきらめることが多かった。ウォルトディズニーのこの言葉で、夢見ることができなかった自分に気づいたようです。

よし、前を向いて歩こう！ 新しい年をあなたにも、みんなにも飛躍の年にしようね。

続いて、2年生のクラスに顔を出しました。「今日は珍しい形だね」

ちょうど、お弁当の準備中でその日は円形に机を置き、お互いの顔を見ながら食事をするようにしたとの説明を児童がしてくれました。すると、「校長先生、真ん中で踊ってみて下さい」と言われてしまいました。冗談のつもりで「それではじゃんけんで負けたら踊る」と言うと、あっけなく負けてしまい、真ん中で踊らされてしまいました。本校の1年生・2年生たちは、とてもコミュニケーション能力が高く人なつこく、よく挨拶をし、話しかけてきてくれます。

こうした友達や人との関わりの中で、この2学期はさらに心が磨かれたのではと見ています。

いっしょに校外学習にも行きました。ちょうど道路を歩いている時、現在、アーリントンハイツ公園に飾られている大きなクリスマスツリーをたくさんの警察や消防車両がガードしながら運ぶ場面に出会いました。2年生が歓声をあげて手を振ると、警察や消防署の人たち全員がみんなに手を振ってくれたね。2年生のみんなにもよいクリスマスが訪れるでしょう。

3年生は先日、東京とZOOMで結び、本校の大先輩である大学の先生と学習を深めていました。スコキー校舎とナイルズ校舎を経験し、現地校にも通われたことがあるとのことで、子どもたちの質問も多岐にわたりました。現地校と日本人学校とのちがいや、それぞれの良さなど、貴重なお話を聞けました。児童たちもよくお話を引き出せていました。3年生になるとさらに視野が広がる様子が伺えます。今学期はTensukeさんの御協力で校外学習に出かけ、レポートをまとめました。シカゴシンフォニー演奏会では、お行儀のよさがよく表れていましたね。水谷先生の東京出張中もきちんとしたおちついた生活ができました。3年生の成長を感じました。

4年生ですが、校外学習のリグレーフィールドは有意義な見学ができました。通常は見ることができなかったり、足を踏み入れることができない場所まで特別に案内をしてもらいました。ベンチに座ったり、記者席や実況中継席まで入ることができました。アメリカ人のガイドさんが英語で説明する中で、みんながうなづいている姿に感動しました。そうした力が先日の現地校との交流会でも存分に発揮されていました。日本語を教えるほぼ1対1でのやりとりや、学校案内など、4年生になるとこんなにおちついて、考えて、英語で話ができるのだなと驚きました。幼稚園のクリスマス会と日時が重なり、担任の先生が孤軍奮闘でしたが、なかなかよい雰囲気交流会を見せていただきました。

5年生、ある日の朝、私が朝自習と朝の会に出る機会がありました。実は9学年の中で、5年生は教室や校庭でよく見るのですが、関わりがほとんどありませんでした。交流会も急な都合で同行できませんでした。授業を覗くといつも担任の先生のしっかりした授業を落ちついて受ける姿や、担任の先生と元気に外を飛び回る姿は見ていましたが、児童との触れ合いは一番少なかったかもしれません。まずは、朝の読書時間、なぜ担任の先生が来ないのかみな心配していました。担任冥利につきる瞬間ですね。手際よく提出物を出し、各自が静かに本を読み始めました。この時、全員がノートやドリルを提出する際、ポンと乗せるのではなく、必ず両手で友達が提出した分まで、丁寧にそろえるのです。こうした思いやりの心、物を大切に扱う仕草は、日本人学校ならではの教育なのかもしれませんね。日頃の細かな指導が生きています。その後の朝の会もしっかりとしていました。きびきびとした規律ある学年だなどの印象です。余韻を楽しみたかったのですが、さすが担任の先生ですね、すぐに教室に戻ってこられました。

最後に中学部です。3年生を送る壮行会が12月1日に行われました。仮の卒業式、在校生からの送別の意味もあるようです。本校生徒のすばらしさは、こうした行事で在校生が手を抜かないことです。1・2年生の表情が3年生以上に真剣なものであったことが印象的でした。

中学部は生徒会の立会演説会、投開票と認証式を生徒主体でやりきりました。

さらには、探究学習をどんどん深め、交流学习でも英語で発信しました。私は国内でも小中高と多くの学校を見てきましたが、中学生でこうした授業に取り組めるという学校は、現状では一部の私立学校くらいではないかと思います。先生方のご指導はもちろんですが、極めて優秀な生徒が育っています。そして保護者のみなさまにも心から感謝申し上げます。

こうした中で、志望校に合格し、進路決定者もできてきました。これから受験する生徒への励みにもなるかと思います。

本当の最後に、すみれ幼稚園のみなさんが、クリスマス会を開きました。当日は多くの保護者、教職員が参加してくださり、ありがとうございました。その日を迎えるための毎日の練習や準備など、年少・年中・年長の子どもたちのがんばりを小・中学生も微笑ましく見ていました。教育課程にはありませんが、小・中学生にとっても園児との触れ合いは、他の学校にはない、この学校独自の大きな教育環境であり、教育効果が表れています。

園児のみなさんから、校長先生見に来てねと言われていたのですが、残念ながら事情があり10時18分から数分しか見られませんでした。会場には舞台に全員が並び、真剣な表情で演じている姿が見えました。多くの保護者のみなさまと教職員がいたため、一番後ろから一人ひとりの表情を見てから会場を離れました。

すると月曜日、年少・年中・年長さんそれぞれの園児からきついお叱りを受けました。

「校長先生、来てくれなかったでしょう」緊張した表情の中に、園児たちはそれぞれにお母さん、お父さんと親の姿を、そしてだれが見に来てくれたのかをちゃんと確認していたようです。あやとりの自主的な取り組みといい、すみれの子どもたちの認識能力の高さ、学習能力とコミュニケーション能力のすばらしさを改めて実感しました。うれしいお叱りの声でした。

毎日、校内を回ると、子どもたちの姿に心が洗われます。園児のみなさん、小中学生のみんな、保護者のみなさま、ありがとうございました。すばらしい1年でした。

年度末に向けてのお願い

まだ少し間がありますが、年が明けるとすぐに2か月半後卒業式・修了式を迎えます。

3月13日の卒業式、14日の修了式を過ぎますと、学年学級として集まる機会もなくなります。（帰国者や転校する児童生徒もいます）帰国される先生、異動する先生もいます。そのため、その後に何かクラスでの配りもの等がありましても、学校として対応できないケースもでてまいります。各学年学級等でそうしたご計画がある場合は、ぜひとも、保護者間で連絡がとれるようにし、送るものや渡すものがある場合は相互で受け取り方法を確認しておくことをお願いいたします。

（ここまでの文責は校長にあります。以下は教頭先生が作成しています。）

【子どもたちの作品】



(4年生：「ゆめいろランプ」)



(5年生：「ステンドランプ」)

※作品を持ち帰ったら、暗闇の中で電灯をつけてご鑑賞下さい。

特別な世界が広がり、気持ちが落ち着きます。

【シカゴの空】



大自然からのギフト。夕日や朝日に感動し、勇気づけられます。「ありがとう!!」

【1月の予定】

1月（保護者）						
日	月	火	水	木	金	土
	1 New Year's Day	2 学校無人	3 オフィス勤務	4 学校日直あり	5 学校日直あり	6
7	8 学校日直あり	9 3学期始業式 バス集会 下校12:00	10 全校朝会 中学部書き初め 会（5・6限）	11 中学部スキー教 室① 年長懇談会	12 中学部スキー教 室② おあつまり会 年中懇談会	13
14	15	16 委員会⑩ 百人一首かるた 会（3・4限） 年少懇談会	17 小5交流学習 もちつき会 通学委員会③	18 縦割り集会⑦ PTA執行部会⑦	19 第3回英語検定	20
21	22 入学説明会11:00	23 クラブ⑩	24 シカゴ集会 教育相談	25 誕生会 小3・4性教育授 業	26 小4交流学習	27
28	29 入園説明会 大縄記録会①	30 大縄記録会②	31 大縄記録会③ 進路説明会14:20			

※予定ですので、変更する場合がありますの、ご了承ください。

※1月1日（月）・2日（火）は、学校が無人になります。

1月3日（水）は、オフィスが勤務します。（9時～15時）

1月4日（木）からは、学校日直が勤務します。（9時～15時）

※ミターケ（お別れ会）の保護者参観について

本校では、退会されるお子様を、全校児童生徒が勇気付け、励ます伝統的なお別れの儀式（ミターケ）があります。コロナ前は、保護者が自由に参観していただきましたので、以前の姿に戻りたいと思います。ぜひ、参加して、子どもたちの熱い思いを感じ、退会されるお子様と一緒に応援してください。ミターケを行う場合は、保護者クラスルームでもお知らせします。よろしくお願いいたします。

保護者の皆様には、様々な面でご理解、ご協力をいただき、ありがとうございました。来年も、職員一同、精一杯子どもたちに向き合っていきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、良い新年をお迎えください。